

海外生活 エッセー

ロンドン事務所

Let's go “promming” !

(一財)自治体国際化協会ロンドン事務所所長補佐 高桑 愛美 (岐阜県派遣)

→ 戦争中も続いたクラシック音楽祭

ロンドンといえば、パンクやロック音楽、あるいはスポーツ観戦のイメージなども強いかと思いますが、世界最大級のクラシック音楽祭が毎年開催されていることをご存知でしょうか。

毎年7月中旬から9月中旬までの約2か月間にわたり開催されるクラシック音楽祭「プロムス」(正式名称: BBC Proms) は、ロンドンにおける夏の楽しみのひとつとなっています。

遡ること約120年の1895年、クラシック音楽を幅広い人に親んでもらうため、お手頃な値段で大衆的なプログラムを楽しめるプロムスが始まりました。最初は「クイーンズ・ホール」において、発案者の名を冠した「Mr. ロバート・ニューマン・プロムナード・コンサート」という名称で行われました。この「プロムナード・コンサート」を省略して現在では「プロムス」と呼ばれています。

第1次世界大戦後にプロムスが赤字に陥ると、1927年にBBC(英国放送協会)が引き継ぐこととなりました。その後も戦時下でBBCの音楽部門解体の影響による民間スポンサーの募集や、クイーンズ・ホールが爆撃に遭い、現在の会場であるロイヤル・アルバート・ホールへ変更を余儀なくされるなどさまざまな苦難に見舞われましたが、プロムス自体は第1回から一度も休止になることなく、現在まで続いています。

→ 気軽に自由なプロムス

プロムスでは、クラシックはもとより、ジャズやポップス、オペラとの融合などジャンルの垣根を超えたさまざまな演目が催されます。

今年は、没後400年であるシェークスピアの戯曲に着想を得た演目やベルリン・フィルハーモニー管弦楽団

による演奏など多彩なプログラムが行なわれました。

前売り券は例年発売後間もなく売り切れてしまうのですが、プロムス



ロイヤル・アルバート・ホールと当日券を買い求める行列

の魅力は当日券にもあります。当日券は立ち見ではありますが、わずか6ポンド(約800円:2016年10月現在)。演奏者の息づかいが感じられるアリーナ席と最上階から会場全体を見下ろすギャラリー席の2種類があり、これらの場所で鑑賞することを指した「promming」という造語まであるほどプロムスの名物になっています。

私も演奏の素晴らしさと中世を思わせるホールに魅了され、この夏何度かギャラリー席で鑑賞しましたが、手すりに寄りかかって音楽に集中する方もいれば、生演奏をBGMに読書をする方、シートを広げて横になっている方など、皆さん思い思いに楽しんでいました。

ちなみに、平日は夜のプログラムがほとんどなので、仕事後にも気軽に鑑賞することが可能です。今年から、一部の当日券はインターネットでも購入できるようになり、さらに手軽になりました。

→ おわりに

とかく敷居も値段も高いものと思いがちなクラシック・コンサートを、こんなに自由に誰もが楽しめることに驚くと同時に、プロムスが120年もの歴史を持ち、今ではロンドンの夏の風物詩にまで昇華していることに感動を覚えました。

この時期のロンドンにお越しの際には、ぜひロンドンナー達に混じって「promming」してみてくださいね。